

星界に飛揚して歸るを忘るゝものもある。或は星と或種の默契あるを信じて、脱俗超世の趣きを示すものもある。其他星辰に對して默禱するもの、狂熱的に星を慕ふもの等、星に對する種々なる感情が生起するも此時期である。

雲に對する感情

兒童の想像力の最も富贍にしか、最も多様に見はるゝこと、雲に對するが如きは他に求め難いことであらう。兒童は雲中に於て、常に地上のあらゆる事物を投觀するばかりでなく、何等の根柢のない色々な幻影をもこの中に認むるのである。故に兒童の住所にして千變萬化を示す空氣の下層にあらずとしたならば、想像を逞うする餘地が少なく、其生活も現狀に比し、極めて索漠たるものとなつたであらう。蓋し種々の形狀物體が雲に於て兒童の眼中に映じ來るに止らず、兒童の内面的の情緒や情操やはこの雲界の光景の變化に應じて轉移し、爲めにその感情生活の内容を豊富にし、深遠にすること幾許なるやも計ることが出來ない。兒童の雲に對する想像は、時に豊富強烈であるといふ境を脱して、殆んど幻覺的となり、實際の神の顔

風景、車馬、戰爭、動物、花卉等、美しきもの、大なるもの、恐ろしきものは、盡く雲界に見うと思ふ。甚しきは身を以て雲中に投じ、雲に乗り、之と共に馳驅し、その中に見たる人物を追求し、全く雲中の人となり了するに至る。故にかゝる際、雲霧にして消え失せんか、忽然として長大息をして我れに反るを見るであらう。

青年期に至りて、雲に對する感情は、又特有で、幼年時代とは全然趣を異にする。詳言すれば最早雲と共に馳驅するが如きことを思はずして、寧ろ雲の形狀を見て、道德的、美的に、渴仰の念を生じ、現世に求めがたき至純至高のものを憧憬し、茲に所期は物質的より一變して精神的となる。かくて幻覺的の性質は消失するも、空想は舊の如くに存續し、感情は寧ろ強度を加へて來る。兒童は雲界の變化を讚嘆し、恐怖するが、青年は欽仰畏敬の念を生じ、一種神秘的の意義を附し、其背後に或力を認むるのである。

第二節 兒童と火風水

火に對する
想像

兒童の精神生活と教育

三八〇

火は、兒童の想像力を養ふが上に、必要なるものである。これ、雲や霜などに比すれば、その變化動搖が激しいからである。火の變化の極りなき人に幾多の暗示を與へずばやまず、殊に燈火の餘燼が燃え盡して忽ちにして落下し、光明が消失する際などは、人をして空想の境より覺醒したるが如き心狀とならしむるものである。故に兒童は火焰の中に人面花卉妖怪等の光景を見、或は賤の屋が高殿に變じ、蜃氣樓となり、鑛山となり、火山となるを見るべく、或は動物昆蟲の聲を火中に聞き、或は動物の笑ひ、歌ひ、泣き、泣くを聞き、或は松風濤聲を聞くことがある。斯様な感覺は極めて明瞭で長い間兒童に追懷せらるゝものである。兒童の想像の旺盛なる彼れの目には、煙も汚れた蒸氣となり、鬼神の帯となり、火焰又は火中に棲む小動物の呼吸となる。灰は生命を失へる遺骸で人は早晩かくの如き灰燼となるを思ふとき、兒童は恐怖の情に打たれる。此の如く兒童は火の燃ゆる爐邊で、道德的の教訓も得れば、萬物の終始に關する考もえらるゝ。

風に對する
感情

兒童の風に對する想像も至つて盛んである。兒童より眺むれば、風は眠

水に對する
感情

り、醒め、嘔き、怒り、歌ひ、泣き、歎息し、號叫する。風の叫ぶ中に音樂あり、戰爭あり、洪笑あり、叱責あり、と思ふこと上古の人の考の詩歌譬喩に存して吾人に告ぐる所と同様である。此等の想像も十三四歳以上に達すれば、漸次消え失せて、後には風なるものは兒童の氣分と甚密接な關係のあるものと考へて來る。蓋し風の聲は一種の退屈又は不安の情を催さしめ、或は時に睡りを催す材料となる。暴風は神の威力を示し、又は神の怒を現すものと信ずる。風は又往々人の行爲や思想に對する感情を表はすものと考へられる。則ち或は親愛を表はし、或は憤怒を表はし、種々の感情を起さしむる。わけ強き高き風は最も暗示を與ふる力に富んで居る。或兒童は風聲を聞き、海上にある感を催し、船暈の兆候を示すものがある。又或ものは動物、車馬等を想像し、この想像が甚だ敏活なるものがある。

兒童の水を愛することの深き所以は人類の祖先が海洋的動物であつたことを證するもので、今日吾人の精神に海洋的起源の痕跡を留むるは謂れないものではないと論ずるものがある。かゝる説の當否は姑く問はず、

兒童はとにかく水は生命を有するものとして歌ひ笑ひ手招きし、人と語る様に思ひ、暴風や岩石などの爲めに水の激する場合は怒り、狂ふのであると考へる。兒童は又水に秘密を訴へ、物を捧げ、水中には水精、海神の類棲息し、金銀珠玉を飾られたる龍宮が存在すると思ふ。

青年期に至れば、兒童の如く單に水と戯れ又は水中を泳がんとすることを望まずして、却つて海面を眺めて果しなき空想を逞うせんとする。海水の渺茫深遠なるを見ては自分の精神も亦此の如く廣大深遠ならんことを希ふのである。

第三節 兒童と岩石花木

自然界の中で、岩石、礦物、程人の同情を惹くことの少ないものは他にない所である。これその堅く冷たく光のないの致す所と見られるが、かゝる岩石でも尙人の精神を作り又は之を表現するに當り重要な意義を有するところが、ある。夫の物質とか、固體とか、實質とかいふ思想も、多くは岩石といふ

岩石に對する感情

印象から得來れる所で、又記念墓標として巨石を建つるが如き、石壇の如き、卒塔婆の如き、皆これを語るものである。

兒童は又岩石に就き色々の空想を持つて居る。七八歳の兒童にして猶珍らしい幸運を興ふる石を集め、終始之を携へ、或は温め、或は綿で包みなどする。砂礫は石の幼兒であると考へ之を土中に植ゑて水を施しなどして成長するを楽しみ、相互の距離を接近せしめないやうに注意し、これを踏むを許さない。降雨の後には砂礫が多く露出するのであるが、之を以て天より降下し、又は地より産れたるものとし、石の形の小さく醜きは、之を慫み庇ひ、又或石は自分の爲めになれど、或石は害を加ふるものとし、時に一々名を附けては之と語り、形の相似たるは親類同士と思ひ、又屢々之を祭ることさへある。

花に對する感情

兒童は花卉を愛撫することを喜び、庭園の花に向つては自然に手の出づるを覚えぬものがある。兒童の遊戯を見るに花を玩具とし、之を入形したり、兵士としたり、金錢としたりする。時には之を以て頸飾、花環、腰帶様の

ものを作り、少しでも汚點でもあれば、悪みて踏みにじりたり、むしり取りたりする。十三四歳より十九歳頃になれば花を胸に抱きしめ、或は額唇等に推しつけ、或は之に接吻し、或は顔を花中に埋むるものもある。自分の好む花や、自分の好む人物場所事件などを連想せしめる花やに對しては、その冷かなる感を與ふる、或は花瓣の柔かなる、或はその香氣の馥郁たる、一として賞美の種子たらざるはなき有様である。然るに自分の冷淡に考へたり、又は嫌つたりする花に對しては、觸るゝをだに厭ふのである。

花の香氣は妙齡期以前には、單に感覺的に好惡の情を惹起する媒介たるに過ぎぬのであるが、青年期に至れば、香氣は花の重大なる要素となり、一層主觀的の性質を帯びて来る。かくの如くにして香氣は殆んど花の精髓となり、花の象徴は大概その放つ香氣によりて暗示せられる。花の色はこの時代の青年の心を興奮せしむるもので、各様の暗示を興へ、又色彩の好惡は複雑なる象徴を起すものである。

小兒より見れば花には生死あり、發達あり、疲勞あり、睡眠あり、或は病氣に

罹り、或は飢渴を感ずるものとする。何故に花が好愛する所となるかと言ふに、艶麗可憐且、芳香を放つからである。花の傷つける時は繃帶をしてやり、或は花に代りて雨乞をする等のこともある。青年期に至れば、感覺によりて花を観察するよりも、花に對して主觀的反應を顯はし、花と人との關係は一層内面的心理的となつて来る。

花は人に對して又色々の道德的思想を教へて呉れる。即ち温順謙遜、柔和、満足、忍耐、快活、純潔等これである。花によりては豪放、我儘、華美、破廉耻等を暗示するものがある。色々の花に與ふる性質は人により、多少の相違はあれど、大體共通の所がある。しかも花の心情を動かすことの犬に、強きは青年期の女子である。

児童は樹木に對して如何に感ずるかに關し、研究せる人の言によれば、別に教へらるゝといふこともなしに、児童は本能的に樹木は感情、感覺、知識、又は道德をもつてゐるとする。彼等は考ふらく、木は腕脚を有し、樹液は血、又は涙で、葉は着物だから之を失ふを耻ぢらふ、樹皮は皮膚であり、樹木相互に

木に對する
感傷

戀愛がある。若し近接せる樹木が伐り倒されるれば、樹木は寂寞を感ずる。彼れは自分の周圍に兒童の戯るゝを好み、樹枝を伸して兒童の爲めに木蔭を作り、家を護り、兒童が彼れの周圍に來ない時は寂しみの餘り號泣する。樹木は相互に談り合ひ、少くとも同種類に屬するものは互の思想が分り、時には高聲で笑ひ、握手する様にその枝を振ふ。枝葉が互に擦れ合つて發する音はこれ樹木の内に住める木精が物語るものであるとし、或は木の幼兒を眠に就かしめんとして子守唄を歌ふのであるとする。六歳の少女で森林の中を散歩して居る時、樹葉の擦れ合ふ聲に應じて答へをなせるものがある。十歳の少女で木枯の風の吹きしきれる時、樹葉の悲しき訴を聞いたといふものがある。木蔭のなき木は我儘もので、果實を結ばぬ木、その苦き木有毒なる木は惡物であると考へらるゝ。此の如き思想はもはや學校兒童に至れば餘程薄らぎ、青年期になれば、樹木に對する特殊なる感興は殆んど全滅する。かくて青年期には、樹木に對する感情と花に對する感情との間に著大の對照を來すは、奇なる現象と言はねばならぬ。

第四節 兒童と動物

兒童の精神と動物の精神との間には、さしたる間隔なく、その思考、感情、行為乃至愛憎、恐怖、睡眠、同情等殆んど兒童と同一であるといふも、不可なく、兒童の所持せる精神的特質は動物も大抵之を具備するものである。かゝる所から教育的に心理現象を兒童に教ふるが故に甚だ都合のよい所である。即ち豚の如き動物は貪慾にして利己心の強き記號となるばかりでなく、同時に不潔の模式となるであらう。或は胡蝶の如しといひ、或は孔雀の如しと言つて婦人を形容することがあるが、これ等動物の習性を知らぬものにはこれ丈では理解することが困難である。其他鷲、鳥、狐、獅子、鳩、蜂、蟻などの鳥獸、蟲、魚は、何れもそれ々の特質があるから、之を取りて兒童に教訓を垂るゝ材料とすることが出来る。西洋の中世紀に於て狐の物語が普く流布し、以來引きつゞきて人口に膾炙せるは、要するに人類の道德的性質を見はしてゐる著作中で最も良いものであるに因る。されば學校に創製の動

物標本を陳列したり、動物園を設けたり、公園地に様々の動物を飼養したりするはよい事である。又各學校で昆蟲鳥獸の耕耘園藝にとりて有益なるもの若しくは有害なるものなどにつきて教授するなどは、その必要なること論ずる迄もない事である。かゝる益蟲や害蟲やの知識が兒童に對して常に學問上の興味を喚起するばかりでなく、同時に道德的の興味を興ふるもので教育的價値は頗る大である。

普通兒童の居る家庭に飼育せらるゝ二つの動物について見るも、古來人類と動物との間には如何に密接なる關係が存したかは、窺ひ知られるのである。ブレイム氏は『吾人は犬を離れて野蠻人を考ふることが出来ぬ』といひ、或人は又『犬は人間自身の一部である』とも言つて居る。實に兒童の生活のあらゆる方面に亘りてその友達となり、食物臥床を分ち、舉動の活潑なるを愛せられ、人に優れたる性質ありとさへ認められて寵愛を受けるは犬である。バック氏によれば少年の犬に對する態度は妙齡期又はそれ以後に於て一變するとの事である。則ちこの年輩に至れば、犬が狩獵に役

立つことを喜ぶ傾向が俄かに増加し、獵犬を連れて好んで郊外に出る。又この頃新に興味を感ずるは犬の争鬪を好む性質であつて、これによりて大膽勇氣、忍耐等の諸徳性を鼓舞せられ、その影響永く兒童の生活に及ぶことが少からぬ。犬の伶俐なる性質について新なる感興を催ほすのも又此時で、これに色々の藝事を教へて得たりとして居る。又この時代は犬の眼、口、齒、尾などを見て、直ちにその血統を察することが極めて鋭敏である。バック氏は犬と兒童とに關して調査したる事實に基いて、各兒童及少年は、その道德的、教育のため、又その心理的、教育のため、須らく一匹の犬を所有しなければならぬと。米國の西部地方なる或有名の夏期學校では、各兒童に一頭の馬を與へ、之を飼育し、之を馴養し、之を使用し、之を研究するを以て夏季の事業となして居る所があるといふ。斯様な風に又犬を兒童に馴養せしめる時は、忠義、尊敬、誠實の徳を學ぶに於て得る所が蓋し鮮少ではあるまい。其他忍耐、同情、好意等に就いて學ぶ所も多かるべく、又所有權が兒童自身に屬して居るといふ關係から、自然に責任を重んずるやうになるであらう。

猫は以前から現時の様になつて温順な動物ではなく、過去に於ては久しい間人類に危害を與へた猫屬である。吾人の祖先が猫屬に對する恐怖の念が尙残り充分に馴養することの出来なかつたことを證するに足りる事實は、兒童も成人も矢張り猫を恐れ之に關する種々の怪談俚諺があり且つ常に魔術變化を連想するにも知るをうるのである。面白きは各年齢を通じわけでも妙齡期の近づくにつれて猫は少女の寵愛する所となり、犬は男兒間に専ら愛撫せられる。しかし男兒も又十三四歳の頃は猫の鬭争的性質に興味を感じ、少女の猫に對する愛は寧ろ減少する觀がある。しかし男兒は殘忍なる方法で猫を苦しめ、又は之を殺すことも少しとせぬ。兒童の教育上猫に關する經驗の如何に重要であるかは、猫の舉動性質、眼の色、毛色、足耳の形、温順活潑等の事項について綿密なる觀察力を養ふこと、その攀ぢ登る働きの格段なる注意を惹くこと、乃至猫に名前を附けるに當りて雌雄を識別する力の發達すること等にも窺はれる。

バック氏は兒童の動物に對する愛情と年齢との關係をば統計的に調査

し、曲線を以て之を示して居る。それに依れば男兒の犬に對する愛は孰れの年齢にても女兒を凌いで居る。特に七歳乃至十四歳間に増加して最高點に達するやうである。之に反し、猫に對する愛情は孰れの年齢に於ても女兒に一步を譲つて居る。女兒にありては八歳より後は増加する所なきやうである。馬に對する男兒の趣味は十二三歳の頃に至りて俄かに増加する。兎に對しては八九歳後はその趣味更に増加する所なく、却つて減少する觀がある。總じて動物の中で最も兒童に愛せられるは、犬で、猫これに次ぎ、小鳥、兎、馬、鸚鵡、鶏、鳩などは順次これに次いで居る。

此の如きを見れば、若し兒童が動物界より受ける影響を缺如したならば、不具の人となるであらうことは、恰も成人に於て動物がなく従つて漁獵もなく、牧畜もなくばその發達が全く一變するに至るであらうと同一般事である。故に將來の教育學は、兒童の精神の要求に副ふこと一層適切なるべきを期するとしたならば、從來よりも動物の教育上における價值に重きを置くべしであるとし、力説せるホル氏の意見は甚だ合理的のものとして首

背せざるをえないのである。

第五節 自然と教育

自然は大なる書物である。その間に流行する法則を認めしめんが爲めに、人類に感覺の目を開き、又人類自身の活動の中にも自然の法則に背馳することなからしめんがために、誠見といふものを附與して居る。自然は人類に驚異と美觀とを示し、その心情を崇高とならしめる。「自然に反れ」とは人類の發達が邪路に履み入りし時、何時でも呼號せらるゝ所の標語である。その結果新たな健全の歩みに復するを常とする。今日も亦頻りに高唱せらるゝ所の聲は他なし、教育は畢竟兒童をして目と心と手との三者を以て自然の中に入らしむるにあると。

兒童と春

夫のルードウヰツヒ、リヒターの繪畫の中「春」に於て兒童が中點となつて居る事は決して偶然ではない。實に兒童と春とは相互密接なる關係に立つ。未だ物心なき幼兒を綠野に伴ひ行き、蒲公英の花で花輪を作りてその

身に纏はしむれば、何とも言へぬ喜びの様に漲るを見る。彼れは未だ歡喜といふ事を解せぬにせよ、彼れの肺臟は春の頌歌に膨れ、五月の歡聲に共鳴する。より大なる兒童に對しては自然は各種の玩具を提供する。即ち兒童は畔や道の邊の溝の側や、蝸牛を見出し、小川では轉げ廻る昆蟲を、海岸では介魚や白砂やを目撃する。かく戶外で見出されたる寶は總べて家に齎らすことが出来るので、喜んで秘藏せられ、後年に於ける黄金時代追懷の種子とならざるはない。

活き、く、たる自然は、又家庭に於ても、兒童を圍繞して居る。此處にありて兒童は種々の植物の栽培を手助けすることが出来る。もう四五歳位の兒童は、兄弟や兩親やの監視の下に、植物の施水や掃除やをする事が出来る。稍長ぜるは土地を耕へして播種し、若き植物を成育することも出来るであらう。彼れは殆んど毎日の様にこの若い生命の嫩芽の伸びるを見る。何れの芽も親密なる眼許で眺められ、各葉は細かにその發育を觀察せられる。若し花が咲き始めれば、兒童は朝目を醒ますや否や直ちに新たな音が開い

家庭における自然

たかを見ようとする。生物に對し愛情の籠れる世話をするといふ所に、園藝の教育的の價値はあるがそれは姑く擱置き此處に又自然を觀察するといふ重大なる意義がある。若し特に年長の兒童にして植物の瑣細なる發達状態を摸寫して置くことが出来れば、この園藝位無意識の裡に自然の如何なるものなるかに想ひ到らしむるものは他にあるまい。

其他家庭に於ける兒童の仲間としては、カナリヤ、金魚、犬猫等の動物界より觀察の新材料を得る。かゝる動物と兒童との間に存する一種の友情は彼れをして種々の世話をなすを厭はざらしめる。兒童と動物との間の交際が粗野に流れぬことは大切であるがこれやがて動物保護といふ種々の努力の根柢をなすものである。この兩者の友愛の如何にも可憐なるものは、古來御伽噺等によく見はされて居る。

庭園のある處では兩親はこれが一小部分をば兒童のために割き與へるは至極望ましいことである。此處で彼等は鋤や小鋤を以て地に親しみ、かくて健全なる地氣を吸入する。此處で彼等は彼等の蒔き又は植えんとす

家庭に於ける兒童園

るものは、何でも播種栽培することが出来る。彼等は何等掣肘を受くる處なく、芽や花や實の結ぶ様や又は不出來の有様など迄眺めうる。彼等は又此處で植物の種類によりて、その施水肥料などに特種の要求の存するといふことも分る。莖は蔭の屏の下を好むが日當りのよい所を嫌ふ。之に反し石竹は一向日蔭に榮えぬけれども、晴れやかな日光の下にその色彩の美を發揮する。百合の如きは特に小園藝家には餘程注意して育てるでなければ、一朝にして凋萎する。さてこの凋萎の原因の何であるかを調べれば、根に蛭蟻の附いてゐる事を發見する。かくてこの自然には自分だけ單獨に生存するはなく、何れも他に頼りて生存するといふ風な臍氣の豫感を懐くやうになる。此の如く庭園の與ふる暗示なるものは、慥かに無盡藏である。

兒童は多くの事を聞いては居るが實際自己の目で之を觀察するといふ事は極めて少ない。かゝる所から彼等には明瞭なる觀念が構成されず従つてその思考に於ても確實性を缺くことになる。何人でもその思考に於

觀察眼を開く教育

て明瞭なる考を有せぬは、大概その感情意志に於ても模糊たるを免れがた
い。此の如き不明瞭なる意識状態に對する唯一の救済法としては單に正
しき觀念を與ふるあるのみである。即ち目を用ひて犀利なる觀察を爲さ
しめ、口と手とで正當なる表出をなさしむるに若くはない。此の如くにし
て確乎たる觀察の基礎が造られる時始めて合法性の生物學上の研究がな
し遂げらるゝのである。

兒童をして自然の呼氣脈膊に觸れしむる最良の方法は、學校における具
案的の郊外教授である。この効果の如何なるかについては、茲に絮説を要
しないのである。

蒐集と描寫

若し兩親にして心だにあらば、兒童と一所になつて彼等の自然の中で欲
する所の植物、昆蟲、蝶類等の蒐集を助けてやる事が出来る。かくして蒐集
せられたものは、途上で遭遇するものに比すれば、一層精密に觀察すること
が出来ゝる。即ち蒐集物を繰返し／＼と目に觸るゝことによりて、精神上の
所有を確かにすることになり、且つ概觀をなすには好都合ならしめる。更

家庭の日曜
遠足

に生物上の略圖略畫を描く事は、蒐集の價値を一段高からしめるのである。
かくの如くに小なる自然研究家により、蒐集せられたるものは、自己の歴史
を語る活きたる材料となり、唯々知識の上に於てのみならず、又兒童の心情
を、一層深刻ならしむるが上に資する所極めて大である。

兩親が兒童を伴ひて、日曜の遠足を試みるが如きは、單に國民的健康増
進の上に望ましいばかりでなく、又家族生活の根を培つて之を豊かにし、家
族相互間の心情を融和せしむること大である。四季折々の變化につれ、相
應しき場所を訪ふのであるから、兒童をして自然の美に對する情調を養ふ
に適するは言ふ迄もない。

郷土感

兒童は郷土の自然と相親しんで成長し、自分も亦その一部であると感ず
る。かゝる郷土感はやがて愛國心の前身である。故に兒童にして眞に愛
郷の念を有せんか、決して他より凌辱を加へられるといふ氣遣はない。吾
人は安んじて國家の將來を此等兒童の手に託するをうるのである。

第十三章 兒童知能測定の標準

第一節 ビネー、シモンの調査法

以下に記載するは、ビネー、シモン、及シモン、兩氏が兒童知能の發達に關し、千九百八年、これが調査法を案出し、更に千九百十一年、これに改訂を加へたるもの概要である。數字で記せるは兩者共通か、若しくは千九百八年の分、片假名で記したるは千九百十一年の分である。一歳乃至四歳間は、さして必要がないから之を省略した。

五歳の兒童

- 一、同大にして重量異なる二箇の物體、三グラムと十二グラム、六グラムと十五グラムを與へ、何れが重きを答へしむ。
- 二、四角形を摸寫せしむ。
- 三、教師先づ十綴の一文を読み上げ、後直接記憶によりて後唱せしむ。

四、四ペンニヒの貨幣を數へしむ。

五、二箇の三角形を與へて一箇の四角形を造らしむ。

六歳の兒童

- 一、午前と午後とを區別せしむ。
- 二、目的を指示して或具體物の定義を爲さしむ。
- 三、斜方形を摸寫せしむ。
- 四、十三ペンニヒを計上せしむ。
- イ、美醜の比較を爲さしむ。
- ロ、一度に三命令を與へて實行せしむ。
- ハ、十六綴の一文を後唱せしむ。
- ニ、左右の區別を爲さしむ。

七歳の兒童

- 一、右の手と左の耳とを示さしむ。
- 二、繪畫を観察せしめて後之を畫かしむ。

- 三、一度に三命令を與へて之を實行せしむ。
 - 四、九ペンニヒを數へしむ。
 - 五、四の主なる色を見してその名を言はしむ。
 - 六、五位の數字を復唱せしむ。
 - 七、斜方形を畫かしむ。
 - イ、十指の數を舉げしむ。
 - ロ、一男兒の繪を畫かしむ。
 - ハ、四種の貨幣に關する知識を取調ぶ。
 - ニ、繪畫の缺點を發見せしむ。
- 八歳の兒童
- 一、記憶により二箇の物體を比較せしむ。
 - 二、二十より一迄の數を逆に言はしむ。
 - 三、繪を示してその缺點を發見せしむ。
 - 四、年月日を言はしむ。

- 五、五位の數を後唱せしむ。
- 六、美しき少女を畫かしむ。
- 七、九箇の貨幣の乗除をなさしむ。
- 八、四の主色の名を言はしむ。
- 九、読み聞かせたる材料の中より二箇の記憶を語らしむ。

九歳の兒童

- 一、目的を與へて五箇の概念の定義を爲さしむ。
- 二、總ての貨幣に關する知識を舉げしむ。
- 三、各月の名を言はしむ。
- 四、三の容易なる理解力調査の問題に答へしむ。
- 五、読み聞かしめたる材料中より六の記憶を舉げしむ。
- イ、七曜日を問ふ。
- ロ、年月日を問ふ。
- ハ、五箇の物體を重量の順に列べしむ。(三、六、九、十二、十五、グラム)

十歳の兒童

- 一、五箇の物體を重量の順に列べしむ。
- 二、記憶畫を畫かしむ。
- 三、謬妄背理の文を批評せしむ。
- 四、五の複雑なる理解力検査の試験をなす。
- 五、三箇の言語を與へて一文を綴らしむ。
- イ、各月の名を言はしむ。
- ロ、總ての貨幣に關する知識を取調ぶ。
- ハ、三箇の容易なる理解力検査の試験をなす。

十一歳の兒童

- 一、三の語を與へて一文を綴らしむ。
- 二、抽象的の概念の定義を爲さしむ。
- 三、空隙のある語を連ねて一文を綴らしむ。
- 四、三分間に六十の語を擧げしむ。

五、背理の文章を批評せしむ。

十二歳の兒童

- 一、線の長さに對する暗示の抵抗力を調ぶ(被暗示性参照)
- 二、三の與へたる語より一文を綴らしむ。
- 三、三分間に六十語を擧げしむ。
- 四、抽象的の概念の定義を與へしむ。
- 五、各分離せる語を列ねて一文と爲さしむ。
- イ、繪畫を觀察せしめてこれが説明を爲さしむ。
- ロ、七位の數を後唱せしむ。
- ハ、二十六綴の一文を後唱せしむ。
- ニ、一分間に同韻の語三を擧げしむ。
- ホ、文章の空隙を補填せしむ。

十三歳の兒童

六、三角形の變改を爲さしむ。

二 抽象概念の區別を爲さしむ。(喜悅と幸福等)

十四五歳の児童

- 一、七位數の後唱を爲さしむ。
- 二、一分間に三の同韻語を探らしむ。
- 三、二十六綴の一文を後唱せしむ。
- 四、繪を観察して之を説明せしむ。
- 五、文章の空隙を補填せしむ。

第二節 ボーベルタツハの調査法

これは千九百十二年ボーベルタツハがビネシモン法に基いて改良を加へたるものである。この排列たるや年少児童には餘りに容易にして年長児童には餘りに困難なりとの批難點を除去せんとしたるものである。これによれば五歳乃至十歳は各五宛問題があり、十一、二歳は共通になつて居る。

五歳の児童

- 一、十綴の文を後唱せしむ。
- 二、四ペンニヒの貨幣を數へしむ。
- 三、四角形を摸寫せしむ。
- 四、目的を指示して或具體物の定義を爲さしむ。
- 五、四位の數を後唱せしむ。

六歳の児童

- 一、美醜の比較を爲さしむ。
- 二、一度に三命令の實行を爲さしむ。
- 三、十六綴の一文を後唱せしむ。
- 四、二箇の三角形を合せて四角形を造らしむ。
- 五、繪畫を観察せしめて之を畫かしむ。

七歳の児童

- 一、五位の數の後唱を爲さしむ。

- 二、斜方形を摸寫せしむ。
- 三、一ペンニヒより一マルク迄の知識を調べ。
- 四、繪畫の缺點を發見せしむ。
- 五、左右の區別を爲さしむ。

八歳の兒童

- 一、二十より一迄を逆に言はしむ。
- 二、記憶により二物の比較を爲さしむ。
- 三、四の主色を示して名をいはしむ。
- 四、三箇の容易なる理解力調査の問題に答へしむ。
- 五、讀み聞かされたる記事よりその主要點の何たるかを答へしむ。

九歳の兒童

- 一、上級概念による定義を爲さしむ。
- 二、一ペンニヒより一マルク迄の知識を調べ。
- 三、繪畫を觀察せしめ多少助言を爲しつゝ之を説明せしむ。

- 四、年月日を擧げしむ。
- 五、五箇の物體を重量の順次に排列せしむ。

十歳の兒童

- 一、三の與へられたる語にて二文を造らしむ。
- 二、總ての貨幣に對する知識を調べ。
- 三、讀ましめたる材料より六の記憶を擧げしむ。
- 四、二十六綴の一文を後唱せしむ。
- 五、六位數を後唱せしむ。

十一二歳の兒童

- 一、三語を與へて一文を綴らしむ。
- 二、抽象的の概念の定義を爲さしむ。
- 三、分離せる語を列ねて一文を爲さしむ。
- 四、背理の文章を批評せしむ。
- 五、繪畫を觀察せしめて自由に説明を爲さしむ。

- 六、一分間に三の韻を探らしむ。
- 七、文章の空隙の箇處を補填せしむ。
- 八、困難なる理解力徴檢の問題に答へしむ。

第三節 テルマン、チャイルドの調査法

テルマン及チャイルド氏は千九百十二年ビネーモン法に改良を加へたのである。總じて十三階段に分れて居る此等の中には各階段に共通せるものもあるが、又其段に特有なる新なる調査法もある同様の調査法と雖も各階段によりてその内容要求を異にせるは勿論である。一々の實例に至りては紙數の許さぬ處から茲には省略し上例に習ひて記載する。

五歳の兒童

- 一、午前と午後との區別を爲さしむ。
- 二、四の主色を示して名をいはしむ。
- 三、三事を一度に命じて實行せしむ。

- 四、十三綴の一文を後唱せしむ
- 五、言語の知識の調査をなす百語を記せる表の中で一定の率に上らねばならぬとする。

六歳の兒童

- 一、左右を區別せしむ
- 二、指の數を言はしむ。
- 三、十三ペンニヒの貨幣を計上せしむ。
- 四、四位の數を後唱せしむ。
- 五、三の容易なる理解力討檢の間に答へしむ。
- 六、言語知識を調査し、其中の百分の十二以上を理解せねばならぬものとする。

七歳の兒童

- 一、繪を觀察せしめたる後之を描かしむ。
- 二、斜方形を摸寫せしむ。

- 三、 四種の貨幣の知識を取調ぶ。
- 四、 繪畫の缺點を發見せしむ。
- 五、 十四乃至十六綴の一文を後唱せしむ。
- 六、 言語の知識を調べ、知れる率が百分の十四に達せねばならぬとする。
八歳の兒童
- 一、 二十より一迄の數を逆算せしむ。
- 二、 記憶により二箇の物體を比較せしむ。
- 三、 美しき少女を繪かしむ。
- 四、 五位の數を後唱せしむ。
- 五、 言語知識を調査し、百分の十八以上に達せねばならぬとする。
九歳の兒童
- 一、 年月日を言はしむ。
- 二、 五箇の物體を重量の順位に列べしむ。
- 三、 讀ましめたるものの記憶を調ぶ。

- 四、 金錢の計算をなさしむ。
- 五、 二分間に五十の言語を挙げしむ。
- 六、 三箇の複雑なる理解力を調ぶる問題に答へしむ。
- 七、 言語知識の調査、百分の二十三以上を可とす。
- 八、 文章中の空箇の箇處を補填せしむ。
十歳の兒童
- 一、 三の與へられたる言語より一文を作らしむ。
- 二、 五位の數を後唱せしむ。
- 三、 兩替を爲さしむ。
- 四、 言語の知識を調べ、百分の二十六以上に達するを可とす。
- 五、 文章の空箇を補填せしむ。
- 六、 話して聞かせたる物語を復演せしむ。
十一歳の兒童
- 一、 五つの計算問題を爲さしむ。

- 二、四つの困難なる理解力を調ぶる發問に答へしむ。
 - 三、文章の空隙を填充せしむ。
 - 四、言語の知識調べ百分の三十以上を可とす。
 - 五、物語を聞かせて復演せしむ。
 - 六、機智を調ぶべき五つの問をなす。
- 十二歳の兒童
- 一、分離せる語句を列ねて一文を綴らしむ。
 - 二、背理の文章を批評せしむ。
 - 三、讀ましめたるものゝ回想を爲さしむ。
 - 四、二十六綴の文を後唱せしむ。
 - 五、線の暗示に對する抵抗力を調ぶ。
 - 六、言語の知識調べ百分の三十六以上を可とす。
- 十三歳の兒童
- 一、七位の數を後唱せしむ。

- 二、物語の復演を爲さしむ。
 - 三、算術の計算問題を爲さしむ。
 - 四、言語の知識調べ百分の四十二以上を可とす。
 - 五、文章の空位を補填せしむ。
- 十四五歳の兒童
- 一、三時前四分を時計につき指示せしむ。
 - 二、物語の復演をなさしむ。
 - 三、繪を観察して之を説明せしむ。
 - 四、言語の知識を調ぶ。
 - 五、文章の空位を補はしむ。

第四節 モキマンの調査法

モキマンがハンブルグで試みたる兒童の能力調査によれば各年齢に對して十箇の調査が爲され、其中の或物はテルマン及びチャイルドによりて

試みられたる如く、規則的に繰返されて居る毎度、甲、發達調査、乙、天賦調査、丙、環境調査の三者に區分せられて居る。比較を爲すに便ならんがために、ビネーシモンの調査法が出来るだけ多く用ひられて居る。

發達調査と環境調査とは、年齢の増加するにつれて減少し、之に反して、天賦調査は増加して居る。多くの何等記載する所なき空位の數字を擧げたものは、この調査は多様の意義をもつといふことを示して居る。例へば五歳の時の二の検査法は發達調査としても又天賦調査としても該當することが出来るのである。しかしこれが何故に發達調査の欄内には記入せられないかと言ふに、この年齢に於ては第一に天賦調査とする方が一層適當とすることを意味して居る。以下甲と記せるは發達調査、乙と記せるは天賦調査、丙と記せるは環境調査の略である。

五歳の兒童

甲

一

- 二、 繪の觀察をなさしむ。一は自由に一は指導して觀察せしめ、その形體乃至美といふ事に對する理解の程度を見る。
- 三、 點を書きたるものを示して注意の範圍を調ぶ。(注意の實驗)
- 四、 ビネーに於けるが如く二箇の三角形を與へて一箇の四角形を作らしむ。
- 五、 二個の重量を比較せしむ。(五十と百、百と百五十グラム)
- 六、 二乃至四の文字又は數の後唱、及容易なる八乃至十綴の文章を後唱せしむ。
- 七、 一の四角形を畫かしむ。

丙

- 三、六ペンニヒを計へしむ。
- 七、時間上の知識何時人は教會に行くか等を問ふ。
- 八、テルマン、チャイルドによる言語知識の調査をなす。
- 十、六の主なる色の名をいはしむ。

六歳の兒童

甲

- 一、
- 三、
- 四、道徳的の判断即ち御伽噺又は假作物語の場合につき教訓を見出さしめ或は判断を爲さしむ。
- 八、時間上の知識朝、昨日、明日、一昨日、一年中の遊戯の各種の時期を擧げしむ。
- 九、五歳の六に同じ。

乙、

- 二、三乃至二十六綴の一文を直接記憶によりて後唱せしむ。
- 三、(イ)ピネーの如く簡易なる繪により(ロ)各種の美的に書かれたる繪により(ハ)醜なる物體や繪の判断を爲さしむることによりて美に對する比較判断をなさしむ。
- 五、或は全然自發的に或は目的記載同種と異種等に關する實例を示して助成的に椅子、人形馬、兵士等熟知せる物體の定義をなさしむ。
- 六、三箇の同時に與へたる命令を實行せしむ。
- 十、五歳の四に同じ

丙

- 一、左の手と右の耳を言はしむ。
- 七、年齢、兩親の地位、住所、兄弟母の仕事、貨幣、家具等に關する質問をなす。

七歳の兒童

甲

- 四、四乃至七の語及十六乃至二十八綴の文の直接記憶をなさしむ

- 五、五歳の六の如く注意の範圍を調ぶ
- 十、

乙

- 一、繪に於ける缺點を見出さしむ。
- 三、五歳の四と同様なることを摸寫せしむ。
- 四、
- 五、五歳の五の如く繪を見しめて畫かしむ。
- 八、三語を與へて一文に連ねしむ。

丙

- 二、三乃至五の文字を摸寫せしむ。
- 六、二十箇の貨幣を計へしむ。
- 七、六箇の貨幣を示しその色、國などを言はしむ。
- 十、七箇の主なる色及三の間色の名を言はしむ。

八歳の兒童

甲

- 三、
- 七、四乃至七の文字及二十六綴の一文の直接記憶をなさしむ。
- 八、以前の如く注意の範圍を調ぶ。

乙

- 一、一の物語につき目的指示をなして直接記憶をしらぶ。
- 六、二物の比較例へば蠅と蚊、箱と籠、汽車と電車の如きをなさしむ。
- 九、五歳の五に於ける如く、繪の觀察物體の記載をなさしむ。
- 十、

丙

- 二、ペンニヒを計へしむ、三に一、三に二、三に五ペンニヒを加へしむ。
- 三、七歳の十と同じく十色を言はしめ、且各色に相當する事物の名を擧げしむ。

- 四、二十より一迄を逆算せしむ。
- 五、八綴十六綴の文を書取らしむ。
- 十、球と野原といふ遊戯により理解力の調査をなす。
九歳の兒童

甲、

- 七、
- 八、以前の如く注意の範圍を調ぶ。
- 九、

乙、

- 四、自由に又は例を示して二物の異同を述べしむ。
- 五、話し聞かしたるものを回想せしむ。
- 六、ビネーに依り六の重量の排列をなさしむ。
- 七、八歳の九と同様
- 九、四乃至九位の數及十四綴乃至三十綴の文を後唱せしむ。

丙、

- 一、時間上の知識、六歳の九と同じさも自分の誕生日重なる祭日等と言はしむ。
- 二、七曜や月名をあげしむ。
- 三、貨幣の計算をなさしむ。
- 十、テルマン、チャイルドにより言語の知識を調ぶ。
十歳の兒童

甲、

- 二、
- 六、四乃至六の語四十綴迄の文章の直接記憶を爲さしむ。
- 九、直線の暗示法につきて調ぶ。
- 十、六歳の三の如く美的判断をなさしむ

乙、

- 三、三語又は二語より一文を作らしむ。ハンブルグ、富河の如し。

- 四、ロイベルタツハの如く知能上の發問に答へしむ。
- 五、
- 八、テルマン、チャイルドに於けるが如く、御伽噺の復演をなさしむ。

丙

- 一、時間上の知識を調べ。
- 二、貨幣切手類等に關する知識を調べ。
- 三、
- 五、空間上の問題につきては五歳の四の如く畫を寫さしむ。
- 七、言語上の知識を調査す。
- 十、

十一歳の兒童

甲

- 七、漸々數を増加して直接記憶を爲さしむ。
- 八、數文字を與へて一文を作らしむ。

乙

- 一、背理の文章を批評せしむ。
- 二、二語を與へて一文を綴らしむ。
- 三、
- 四、同情、正義、猜疑、友情、家族、罪惡等抽象語の定義をなさしむ。
- 五、ビネー、ポーペンタツハの如く、無秩序に置かれたる主辭、賓辭、修飾語を與へて一文と爲さしむ。
- 六、概念の順位を挙げしめ、又は因果の關係を發見せしむ。

丙

- 三、道路、教室、又は衣服に關するものと指示するが如く、觀念の或範圍を定めて三分間に六十語を挙げしむ。
- 九、空間觀念を調べ。
- 十、言語の知識を調べ。

十二歳の兒童

甲

- 一、六乃至九位の數字及四十綴の文章の直接記憶をなさしむ。
- 四、以前に於けるが如く注意の範圍につき調ぶ。
- 五、直線の暗示に對する抵抗力を見る、又繪畫により暗示的の質問に答へしむ。

乙

- 一、
- 二、同韻の語を探らしめ、又韻を履みて一文を作らしむ。

三

- 七、或は自由に、或は實例を示して助成的に、抽象概念の定義を爲さしむ。

- 八、十一歳の六に於けるが如し。

- 九、十一歳の二と同性質のものを試む。

丙

- 三、文章の空隙を填充せしむ。

- 六、言語の知識を取調ぶ。
- 十、以前に爲したるが如き美的判斷乃至形體上の繪の理解力を見る。
十三歳の兒童

甲

- 五、推論を爲さしむ。

乙

- 一、ビネーに依り發展的の實驗を試む。
- 二、三角形を變改せしむ。
- 三、吝嗇と節儉、誤謬と虚偽等の抽象概念の區別をなさしむ。
- 四、概念を彙類せしめ又は因果の關係により一文を構成せしむ。
- 六、加農砲の彈道如何等困難なる知的の發問に答へしむ。
- 八、御伽噺より教訓を見出さしめ又道德的の判斷をなさしむ。
- 九、刺戟語を與へて一文を構成せしむ。

丙

七、言語上の知識を調ぶ。

十、繪畫の一對を示して稍、困難なる美的の判断をなさしむ。

甲、十四歳の兒童

甲、

一、六乃至十位の數字及三十綴の容易の内容を有する一文、同様の長さの抽象的にして困難なる一文の直接記憶を爲さしむ。

二、

三、十三歳の八と同性質の道德的判断を爲さしむ。

九、十二歳の五の如く暗示に關する實驗を行ふ。

乙、

一、

四、刺戟語を断片的に與へて稍、困難なる物語を構成せしむ。

五、十三歳の四の如く思考關係の發見をなさしむ。

六、十二歳の七の如く抽象概念の定義を爲さしむ。

七、十三歳の五の如く推論を爲さしむ。

八、空間的觀念につき調ぶ。

九、

丙、

二、十三歳の十の如き美的の判断を爲さしむ。

九、

十、書取を爲さしめ手蹟、正辭法、把捉力、理解力を檢す。

十五歳の兒童

甲、

一、一層困難なる直接記憶をなさしむ。

二、

八、十三歳の八の如く道德的判断をなさしむ。

乙、

一、

- 三、王と大統領との區別を問ふ。
- 四、十四歳の四の如く結合法を取る。
- 五、十四歳の八の如く空間的の觀念を調ぶ。
- 六、十三歳の四の如く思考關係を調ぶ。
- 七、十二歳の七の如く定義をなさしむ。
- 八、十三歳の五の如く推論を爲さしむ。

丙

- 二、美的の判斷をなさしむること十三歳の十に同じ。
- 十、言語の知識を取調ぶ。

兒童の精神生活と教育 終

兒童の精神生活と教育の批評

に對する有力なる教育雜誌

教育時論

(第一千百十九號)

本書は著者の實驗研究の結果、児童心理を闡明したるものにて、児童心理上の事實を事實として記し、加ふるに教育的見地より如何に之を導き、如何に之を待つべきかについて論述してある。児童心理學の任務、児童心理觀察の方法、児童の精神生活の特質、児童個性の四大型、児童の道德意識の發達、児童の道德的判斷、児童の虚言、児童と暗示作用、児童の所有欲、児童の社交定型、児童と嗜好、児童と自然、児童知能測定の標準等十數章數十節に分ちて論述せり。教育研究の根本問題として、必ず一讀すべき書なり。

教育研究

(第五百五十三號)

著者は廣島高等師範學校教諭にて現に附屬小學校で實地研究に従事して居られる人である。教育の方法が児童の心理研究に基かねばならぬことは今更いふ迄もない。しかし是迄のやうに児童は大人の縮圖と見るやうな大まかな者では餘り助にもならぬので、現今は一般に此の方面の研究が進歩しては來たが、悲哉我獨てはまた充分とは言へない。著者は此の缺陷を充つ爲に歐米諸國の著書を參考し之を自家の経験に顧みて本書を著された。眞に時代の要求に適應したものと云つてよい。蓋し我が初等教育界は之によりて暗示される所が多いだらう。今其の重なる者を擧ぐれば、児童心理學の任務、児童心理觀察の方法、児童の精神生活の特質、児童個性の四大型、児童の道德意識の發達、児童の道德的判斷、児童の虚言、児童と暗示作用、児童の所有欲、児童の社交定型、児童と嗜好、児童と自然、児童知能測定

定の標準等で、何れも有益な文字である。巻頭には引用書、並出し、あるから、進んで研究せんとするものにも好個の手引となり、親切な著書である。

教育

(第四百一號)

西洋の社會狀態を背景とし勝ちなる、統計間の統一を忘れ勝ちなる、各章間の連絡の不充分になり勝ちなる、語句法の翻譯流になり勝ちなる等のことは、吾人が本書を讀みて感ずる缺點の主なるものなりと雖も、日本児童學會等の努力に拘はらず、一般に遅々として進まず、輕々に看過せられつゝある、我が教育界に於ける児童心理の研究の大勢に、歐米諸國が如何なる傾向に於て此の方面の調査を行ひ、如何なる結論を生まむとすつゝあるか、之等を歐米の専門書三十卷を讀破咀嚼して親切忠實に紹介せる、新潟師範の秀才にして廣島高師に學び現に其の附屬小學校にありて児童を直接研究しつゝある白井規一氏の本書は、蓋し斯界の寶庫の如く教育界を中心に各社會に尊重せらるべき好著たりと斷言して吾人は毫も慚らざるなり。

本書載する所の主要なる事章を擧ぐれば、児童心理學の任務、児童心理觀察の方法、児童の精神生活の特質、児童個性の四大型、児童の道德意識の發達、児童の道德的判斷、児童の虚言、児童と暗示作用、児童の所有欲、児童の社交定型、児童と嗜好、児童と自然、児童知能測定の標準等十三個章に亘る。而して時々著者の實驗を加へ、教育上の注意をば著者自身の経験と冥想とより與ふ。吾人は統計直ちに信ずべからず、斷案必ずしも賛同すべからざる多々あるを思ふ。されど心眼を以て讀まむ

か、幾多の暗示と啓蒙とを存するを感謝せざるを得ず、即ち児童觀察研究を爲すの方法を知らしめられ、之によりて自ら研究するの助となし、我が國児童の特に西洋のものと異なる所以を發見し、其の因りて來る所を我が國の各種の事情に求め、以て教育上の方策を案せむとする者に取りては本書は吾人の意圖の範圍に於ては蓋し絶好の伴侶たり。

帝國教育

(第四百七號)

児童の心理狀態を知るは、教育上最も大切なことである。著者は現時の教育界に於て、根本的研究を要するもの此點にありとなし、多年児童を中心とする心理研究の材料を蒐め、此著を公にせられたのである。(一)児童心理學の任務、(二)児童心理觀察の方法、(三)児童の精神生活の特質、(四)児童個性の四大型、(五)児童の道德意識の發達、(六)児童の道德的判斷、(七)児童の虚言、(八)児童と暗示作用、(九)児童の所有欲、(十)児童の社交定型、(十一)児童と嗜好、(十二)児童と自然、(十三)児童知能測定の標準

普通教育

(第七卷第六號)

君子三日相見えざれば則ち刮目す。廣島高師教諭白井規一氏が篤學の士にして且つ趣味に廣く、文學に對する理解も極めて深くして、流暢の篇章筆下に成るを知つて居る。蓋し氏の如きは廣島高師が生み出したる寧馨兒であつて、前途最も囑望されつゝある人である。此頃新著『児童の精神生活と教育』を附つて批評を求められた。就て見るに内外の新著三十餘書を讀破して其粹を集め交ふるに多年の經驗を以てし、理論と實際とを渾然一體、且つ之をやるに暢達の筆を以てし、多數の有益にして趣味ある挿話は、特に此書を讀む

者をして史傳傳誦を讀むの感あるらしめ、氏の文學的才能を窺はしめる。氏は児童の精神生活を究むる事は児童教育學上の重大任務であつて、同時に斯る方面の研究は現代教育改善上の根本問題の一であるとして、児童心理の觀察方法や、精神生活の特質や、個性の四大型や、道德意識の發達や、道德的判斷や、社交型や、嗜好や、児童と自然、児童知能測定の標準其他の各題目の下に歐米諸國の最新研究を紹介し、評論し、且つ之が適用上の諸注意に論及して居る。されば此書の如きは必ずや吾人の推奨を待たずして争うて愛讀さるゝ事であらうと信ずる。

内外教育評論

(第十卷第九號)

本書は主として泰西諸國の児童心理の研究の方法及結果を敘述し、間々著者自身の経験と研究の所得とを挿入してこれを補ひ、且つ教育的見地より如何に児童を導き如何に之を待つべきかを論述したものである。著者自身の實驗の結果を示すと甚鮮なきは物足らぬ感を與ふるけれども、泰西學界の最新研究の成果を正確に且つ詳細に紹介せるの勞は大に多とすべく、教育界を裨益する事少からざるべしと信ずる。内容大綱は次の如くである。児童心理學の任務、児童心理觀察の方法、児童の精神生活の特質、児童個性の四大型、児童の道德意識の發達、児童の道德的判斷、児童の虚言、児童と暗示作用、児童の所有欲、児童の社交定型、児童と嗜好、児童と自然、児童知能測定の標準

教育界

(第十五卷第十號)

白井氏は廣島高師の調導である。本書は一種の児童心理學で、進んで教育上に於ける應用法まで論及

してある。その目次は、一、児童心理学の任務、二、児童心理学観察の方法、三、児童の精神生活の特質、四、児童個性の四大型、五、児童の道徳意識の發達、六、児童の道徳的判斷、七、児童の虚言、八、児童と暗示作用、九、児童の所有欲、十、児童の社交定型、十一、児童と嗜好、十二、児童と自然、十三、児童知能測定の標準等である。一調尋の手によつて、かゝる學術的好著の世に公にせられた事は深く多とすべきである。

小學研究（第四卷第八號）児童の精神生活は單に大人の其れの小規模とのみ見るべからず、質量共に兩者は大に異れり。故に若し能く児童心理を知らんと欲せば、特に其の研究を爲さざるべからず。是れ近頃其研究の聲次第に高まりつゝある所以にして、將來の児童教育學は當に児童心理学の基礎の上に建てられざるべからず。今後の教育界に於て根本的研究を要するもの幾多あるべしと雖も、児童心理学研究の如き亦確に其の一たるを疑はず、本書の講述は我國及び歐米の學者の説を主として加ふるに著者自身の經驗と研究の結果とを以てしたるものなり。單に児童の心理事實を説述するに止まらず、又如何にして之を導き之を待つべきかに論及せり。蓋し書名の付けられたる所以か。教育者及び一般家庭に於ける児童教育上、常に要する書と謂ふべし。

學校教育（第三十一號）著者は廣島高等師範學校附屬小學校に於て非常な勤務に従事して居られるのであるが、其の傍ら諸種の研究を公けにせられて、吾が教育社會の爲に常に斬新有益なる意見を提供して居られることは、特に學校教育、教育學術界、小學校、帝國教育、小學研究、普通教育などの讀者の熟知せられる所である。本書を讀んでみると大抵此等の諸雜誌に公にせられた意見を統一せられた様な感じがするにも係らず、興味津々として盡きず、全く巻を覆ふ邊がない。讀み終つて熟考へて見ると、第一に學校児童の精神生活を單に心理上の事實として記載するに満足せず、常に教育的見地より如何に之を導くべきかに就いて著者の丁寧親切なる意見が載せられてあることに氣が付く。これは教育の實際に當つて常に児童に親炙し、實地指導の任に當つて居る人でなければ出来ないことであり、また吾々教育實際家にとりて頗る興味の湧く所である。第二に著者が児童の精神生活を考察するに當つて單に児童心理学の科學的分析的見地に依らないで、児童教育の實用的、総合的見地よりせられたやうに思はれる點があるのを見逃がすことが出来ない。児童の道徳意識、児童の道徳的判斷、児童の虚言、児童の所有欲、児童の社交定型などの題目は何れもかゝる見地から見ても甚だ有意味であり、甚だ有益である。なほ第三に著者は外國學者の研究の方法及び結果に就いて叙述せられたるに止らず、著者獨特の經驗と研究とを併せ載せられて居る。これ吾人の甚だ愉快に感ずる所である。ともかく吾人は我が教育社會にかゝる好書を得たることを喜び、廣く教育實際家の熟讀を奨むるものであらう。

大正五年四月二十三日
大正五年四月二十六日
大正五年五月十一日
大正五年五月十五日
再版發行
再版發行
再版發行
再版發行

定價金壹圓五拾錢



兒童の精神生活と教育

著者 白井規一
發行者 目黒甚七
印刷者 佐久間衡治
印刷所 英舍
東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地
東京市京橋區西紺屋町廿七番地
東京市京橋區西紺屋町廿七番地

發行所

東京市京橋區南傳馬町二丁目
同南傳馬町一丁目(分店)
新潟縣長岡市表四ノ町(本店)

目黒書店

電話京橋二一六三番(分) 電話京橋二七四九番(長)
電話長岡一八番
振替口座二八〇九番(店) 振替口座二三三三七番(關) 振替口座三六一九番

目黒書店出版圖書目録

東京市京橋區南傳馬町貳丁目
振替口座〔東京〕第二八〇九番

文學博士 重野安禎先生
文學博士 久米邦武先生
文學博士 星野恒先生
共編

東京帝國大學藏版
史學會印行

史眼

定價 金壹圓八拾錢 郵稅 金拾貳錢

文學博士 那珂通世先生校點

史學會印行
遺書 壁考 信 錄

一、二、三定價各金壹圓五拾錢
四 卷定價 金壹圓八拾錢 郵稅各金拾貳錢

東京帝國大學 文學博士 箕作元八先生著
文科大學教授

南亭史說集

定價 金貳圓 郵稅 金拾貳錢

東京高等師範學校教授 乙竹岩造先生著

輓近教育事實の進歩

定價 金貳圓拾錢 郵稅 金拾六錢

國史界一代の泰斗たる重野久米星野三博士の豐富なる其識と卓越なる其見と將公正なる其批判とに成れる本書が洵々たる詳籍を披きて國史の大懇談たる所以のもの世既に定論あり今や梓を新にするに當り附するに辻文學博士の作成せられし精細緻密の目録及索引を以てす是眞に本書の價値に向つて一段の光彩を添へたるものといふべし

●第一冊△考古提要△補上古考信錄△唐虞夏商考信錄●第二冊△品切△雙編考信錄△洙泗考信錄●第三冊△雙編考信別錄△洙泗考信餘錄△孟子事實錄△考古續說△考信附錄●第四冊△王政三大典考△禮風儀識△尚書考△論語餘說△易卦圖說△五服異同考△無聞集

本書は博士獨特の史眼を以て珍奇なる史料を抄述し興味に富める論文十數篇を收めたるものにて珍奇なる史料としては明の王太后より羅馬法王に贈りし論文日本基督教徒より羅馬法王に贈りし文書及英露連合日本條略に関する文書等多々あり本書は實に時代史界の權威なり

陶冶の事實は休むことなく教育の活動は眠る時無し著者乃ち輓近特に伸展の教育事實に就いて其進歩の實況發展の真相其の得失利弊効果影響等を究明し殊に本邦教育の實際に對する直接の參考に主力を注ぎ研讀多年積漸く成りしもの即ち本書なり其の所説體裁内容充實教育の研究者并に實際家に眞に裨益を與ふること益し甚大なるべし

東京高等師範學校教授 乙竹岩造先生著
實驗教育學
定價 金壹圓貳拾錢 郵税 金拾六錢

▲實驗教育學は二十世紀の新世界に建設せられたる一大偉蹟なり
▲實驗教育學は客觀的の實驗を重んじ社會統計的研究を主とす
▲實驗教育學は一方生物學人類學進化論等の研究の結果を顯露す
▲實驗教育學は科學的研究法によりて教育上の原理原則を建設す
▲本書は歐美諸大家の研究の粹を蒐めて完成せられたるものなり

東京高等師範學校教授 乙竹岩造先生著
現代教育教授思潮
定價 金壹圓八拾錢 郵税 金拾貳錢

本書は著者が内外教育教授の新思潮新要を細羅し其由来發達並にその事實影響を明にするのみならず更に之を批判し評價し其長短得失を審にし以て教育教授の歸趨する所を示さんことに主力を注がれたるものなり

東京高等師範學校教授 乙竹岩造先生著
新教授法
定價 金壹圓八拾錢 郵税 金拾貳錢

教授法に於ては實驗教育學上の新研究に基づき認識論理の基礎に據り特に教授經濟學經濟の見地より立論し教授各論に於ては此原理に準據して各科目に教授の基盤を明かにし更に教材教法を詳細に説明し首尾一貫して新思潮の趨勢を明かにすると同時に實地上の弊點を根本的に解決せられたるものなり本書を讀みて此書の譯ならざるを悟られんことを

東京高等師範學校教授 乙竹岩造先生著
穎才教育
定價 金壹圓八拾錢 郵税 金拾貳錢

●穎才教育に關する確實嚴密なる進歩的改善を唱道せるは本書なり
●穎才教育に關する極端周到なる事實的研究を傾注せるは本書なり
●穎才教育に關する有効適切な具體的方案を提示せるは本書なり

東京高等師範學校教授 乙竹岩造先生著
訂更 低能兒教育法
定價 金壹圓六拾錢 郵税 金拾貳錢

▲低能兒教育は教育學及醫學上の新研究を巧に融合せるものなり
▲近時發達に於て最も著しく注意を惹けるは低能兒の教育法なり
▲低能兒教育は議論の時期を經過して既に實行の時期に入りたり
▲新法の原理原則と詳細周到の實驗方法を細羅せるは本書なり
▲最近歐美に於ける補助教育の實際に據りて訂更せるは本書なり

東京高等師範學校教授 乙竹岩造先生著
不良兒教育法
定價 金貳圓 郵税 金拾貳錢

◎不良兒教育に關する理論の骨髄と實施の要領を網羅したる
●不良兒教育の問題 不良兒の心理的觀察 不良兒の教育的觀察
●兒童犯罪の研究 癡逸の保護教育 英國の感化教育
●米國の少年戒律制度 不良兒教育の要領 不良兒教育方法
◎あらゆる階級の士人及家庭父兄の必ず讀んでらるべき良書

東京音樂學校校長 湯原元一先生著
教育及教育學の改造
定價 金貳圓 郵税 金拾貳錢

是れ教育界の泰斗たる著者の現代教育に對するハツ當りの提議なり同情あり反感あり而して建設あり破壊ありしかも辯護あり排斥あり實に滔々數十萬言中一の空言浮議なし眞に是れ今日沈滞せる教育界に向つて活潑なる爆彈を投下せられたるに均しき餘あり

東京音樂學校校長 湯原元一先生著
最近 教育學界の一大思潮
定價 金壹圓參拾錢 郵税 金拾貳錢

本書は新下教育上の一大思潮たる公民教育と勤勞教育とを最も精細公平に說明批判し且つ著者が獨特の懸案卓識を以て人格教育に關する深刻なる批評を下されたるものなり

文部省督學官 嶺山榮次先生著
教授法の研究
定價 金貳圓 郵税 金拾貳錢

●最近の學說を基としたる教授法各方面の新研究は本書なり
●自家の意見と歐米の學說とを折衷したる改良案は本書なり
●所收諸論進歩的に於て教授の實際に適切なる者は本書なり
●最近に於ける實驗的研究の要領を詳述したる者は本書なり
●新學說に據りて他を輕視するの弊を避けたる者は本書なり

文部省督學官 嶺山榮次先生著
小學校に於ける實際問題の理論的研究
定價 金壹圓五拾錢 郵税 金拾貳錢

●國民教育 共同作業 生産的作業 校訓 個性調査成績考
●學級編制 身心の疲勞 教授時間 時間制 宿題 教授案
●教室の裝飾 教授學習用具 兒童の姿勢 儀式集會 屋外教育
●附録 小學校教育の結果を確實ならしむる方策 簡略主義教育改善法 教授法及新の進歩 學校の視察法 改正手工科の規定

文部省督學官 嶺山榮次先生著

教授の段階に關する研究

定價 金六拾錢 郵税 金八錢

文部省督學官 嶺山榮次先生著

我小學校の教育獨米教育家の意見

定價 金拾五錢 郵税 金六錢

東京高等師範學校教授 同 附屬小學校主事

世界の 大正教育の方針

定價 金壹圓九拾錢 郵税 金拾貳錢

東京帝國大學文科大學教授 東京女子高等師範學校教授

教育教授の諸問題

定價 金壹圓六拾錢 郵税 金拾貳錢

早稲田大學教授 中島半次郎先生著

獨逸教育見聞記

定價 金壹圓八拾錢 郵税 金拾貳錢

▲教授の段階に關する原理原則を遺憾なく闡明したるは本書なり
 ▲教授の方法に明確なる指針を與へんことを期したるは本書なり
 ▲教授の段階に關する問題に付歴史的敘述を成したるは本書なり
 ▲自家の考察と経験とによりて教授段階を創設したるは本書なり
 ▲活動原則とする教授主義に適合せん事を期したるは本書なり

我小學校の教育問題即ち修身教授に在ては人徳主義を取らざるべきは將行爲主義を採るべきは作法教授に於ては之を行ふの必要ありや書方は大字を習はしむべきは筆跡を採るべきは毛筆を取らざるべきに付我地に於ける知名の教育家の意見を求め其の結果を記述したるものなり始めに質問書の譯文を掲げ次にラッセル、デューイ、カント、フエルト、アードラー、デガールモ、等の諸氏を初め獨米に於ける廿一大家の意見を求め最後に編者の意見を表述せられたるものなり

本書は教育界の泰斗たる著者が實に大正維新の機運に參畫する大國民進大向上の理想を修養すべき青年第二國民を鼓舞振作すべき先覺者に向つて現下赤襟々に暴露せられたる世界の形勢を批評する一隻眼と確心とを與へ次に力を與へ最後に熱を與られし大著述なり

從來の教育は大人本位なりき今後は兒童本位に改定せられざるべからず本書は現今教育研究の趨勢と兒童心身に關する最近の研究とを詳述しこれに基いて各科教授に關する諸問題を詳細に論究せられたるものなり

本書は著者が獨逸聯邦中教育の最も進歩せる國々につきて下は幼稚園より上は大學に至るまで順序を追ひて參觀し其設備管理教授訓練を究め教育と宗教との關係社會教育の狀況獨逸の國民性獨逸國家の成立に眼を注ぎ其間常に我國の教育と比較對照し遂に獨逸教育の學ぶべき點學ぶべからざる點を明かにせられたるものなり

訂改 教育大意

定價 金壹圓 郵税 金拾貳錢

日本大學 講師 文學士 岩橋遵成先生著

大日本倫理思想發達史

定價 金五圓五拾錢 郵税 金貳拾錢

文學博士 中島力造先生編 讀書會印行

倫理心理宗教新著梗概

定價 各金五拾錢 郵税 各金八錢

【一輯上】ラッド氏著「倫理哲學」と「道徳法」
 【一輯下】グライット・アイロン氏著「倫理の心理學」
 【二輯上】メルガン氏著「進化と道徳」
 【二輯下】シルビー氏著「人性主義」
 【三輯上】アトキンソン氏著「アゾナリス」
 【三輯下】アームストロング氏著「思想の過渡時代」

◎文部省檢定教育大意受驗者唯一の參考書
 ●本書は教育學心理學論理學の全般を網羅せしものなり
 ●本書は毎項問題に置きて答案作成を容易ならしめたり
 ●本書は汎く試験委員の著者を選ばしめて之を引用したり

◎小學教員受驗者及教育實際家必讀の良書
 本書は我國各學派の學者を網羅し首尾一貫せる日本の倫理學史を始めて我學界に提供せられたるなり實に國民道徳の指導者たり我學界又無二の師友たりしかも一般人士の修養指針にして一家の寶典たり

【一輯上】グライット・アイロン氏著「倫理の心理學」
 【一輯下】シルビー氏著「人性主義」
 【二輯上】メルガン氏著「進化と道徳」
 【二輯下】シルビー氏著「人性主義」
 【三輯上】アトキンソン氏著「アゾナリス」
 【三輯下】アームストロング氏著「思想の過渡時代」

【一輯上】ラッド氏著「倫理哲學」と「道徳法」
 【一輯下】グライット・アイロン氏著「倫理の心理學」
 【二輯上】メルガン氏著「進化と道徳」
 【二輯下】シルビー氏著「人性主義」
 【三輯上】アトキンソン氏著「アゾナリス」
 【三輯下】アームストロング氏著「思想の過渡時代」

早稲田大學 野口保興先生著

訂正 帝國大地誌(拓殖地増補)

定價 金壹圓八拾錢 郵税 金拾貳錢

早稲田大學 野口保興先生著

世界地理提要

定價 金貳圓五十錢 郵税 金拾貳錢

早稲田大學 野口保興先生著

地理探検と地理學

定價 金壹圓七拾錢 郵税 金拾貳錢

早稲田大學 野口保興先生著

地理探検と地理學

定價 金壹圓七拾錢 郵税 金拾貳錢

早稲田大學 野口保興先生著

世界物産誌

定價 金貳圓 郵税 金拾貳錢

早稲田大學 野口保興先生著

帝國大地圖

全八軸 北緯大三十萬分の一

早稲田大學 野口保興先生著

世界大地圖

全五軸

早稲田大學 野口保興先生著

世界全圖

定價 金四圓五拾錢 郵税 金拾貳錢

早稲田大學 野口保興先生著

富士山附近地勢模型

定價 白色式 金六圓 褐色式 金七圓 縮尺二十萬分の一

早稲田大學 野口保興先生著

最近地理要報(二年版)洋裝全一冊

定價 金壹圓貳拾錢 郵税 金拾貳錢

中等教員檢定受験者の寶典

本書は精言自然住民政治生業史の六編より成る。組織材料豊富にして新行文簡にして要を得。富を地理學的に解説せし生業編は本書獨特の長所。學者實業家經世家の參考書。

色特の書本

▲世界地理の大要を特論的に述べたるものは本書なり ▲地文と人文との調和に意を用ひたるものは本書なり ▲烈強の現勢を詳述し國民の發奮を促したるは本書也 ▲材料豊富精確簡明論議雄健中正なるは本書なり ▲中等教育に於ける最良の外國地理參考書は本書なり

人文學に於ては人類地理經濟地理政治地理を説き……

◎自然の勢態を經とし人生の適應を緯とせる眞個の地理學書

◎地文學には多くの説明圖を挿入して地文學事項の了解に便す

◎地理學界に根本的の革新を興へ新學の完成を期したる傑作

地文學に於ては數學地理三界地理生物地理を述べ……

著快の前空

▲五大洲開極地域及海洋等に亘れる古今の探検事業を詳かにす ▲探検者の小傳を掲げ以て後進をして奮勵努力の念を起さしむ ▲地理學の起源進化成立等を記して地理學の本領を確證せしむ

經濟地理は各種生業の情況關係を論ずるものにして本書はあらゆる原料品加工品を幾多の細目に分ちて其性質製法效用等を詳細に説明し又卷頭には生業の系統を示し卷尾には重要物産の統計を掲げ且索引を添えて物産辭典たるの實あらしめたるものなれば會に教育界のみならず各種實業家の座右に缺くべからざる一大寶典なり

本州中部 金三圓五十錢

本州北部 金三圓五十錢

本州西部 金三圓五十錢

九州琉球 金三圓五十錢

あじあ洲 金三圓五十錢

あふり洲 金三圓五十錢

つばし洲 金三圓五十錢

北海道 金三圓五十錢

關東 金二圓五十錢

關西 金三圓五十錢

朝鮮 金三圓五十錢

南滿洲 金三圓五十錢

あめり洲 金三圓五十錢

おせあ洲 金三圓五十錢

にわ洲 金三圓五十錢

メルカトル式地圖 製圖精確色彩鮮明

本圖は地勢海深を學國コントル的に表出して洋流交通の狀態悉く各國の領域都會等を明示し更に人種の分布開極地域の二圖を添へたり

從來世に出でし地理模型は或は其區域廣きに失し或は水平と直立との比例尺を異にするが故に實際の地勢と紙面の地圖との間に立ちて兩者の離隔たるべき模型眞個の目的を達せしものなし此模型は水準曲線式にして別に同大にして水準線を百米突毎に現はせる地勢圖を添付し以て兩者の關係を明示したるものなり

本書の例言に曰く「地理學に關する最近の事實は要項を列舉し梗概を記述編輯して新學の研究備忘の便に供せんことを期す」とあり地理學の趣味は廣汎にして困難の容する所にあり爲めに時と勞とを要すること尠少ならず先生所見以て研究の一斑を公にし諸士に頌たんと圖らる

學智院教授 馬上孝太郎先生編
新考綱目 體 日本歴史
定價 金九拾錢 郵税 金八錢

東京高等師範學校教授 齋藤 斐章先生 共編
綱目 體 東洋歴史
定價 金九拾五錢 郵税 金八錢

立所教授 俊先生編
綱目 體 西洋歴史
定價 金壹圓拾錢 郵税 金拾貳錢

岡山縣師範 橋本重次郎先生 岡山縣師範 土井都太先生 共編
綱目 體 西 洋 歴 史
定價 金壹圓拾錢 郵税 金拾貳錢

岡山縣師範 杉山三郎先生 岡山縣師範 池田守平先生 共編
修身書 教材 解説及取扱法
定價 各金六拾錢 第五學年用一冊 定價 各金七十五錢 第四學年用一冊 定價 各金六拾錢 第六學年用一冊 定價 各金八拾錢

奈良女子高等師範學校訓導 三好 甚吾先生 共著
國定修身書及作法教授の實際
定價 金壹圓四拾錢 郵税 金拾貳錢

東京高等師範學校訓導 友納友次郎先生著
實驗的研究 讀方綴方の新主張
定價 金壹圓五拾錢 郵税 金拾貳錢

東京高等師範學校訓導 友納友次郎先生著
讀方教授法要義
定價 金壹圓五拾錢 郵税 金拾貳錢

東京高等師範學校訓導 駒村徳壽先生 共著
綴方新教授細案
定價 上卷 金壹圓七拾錢 下卷 金壹圓五拾錢 郵税 各金拾貳錢

東京府立第三中學校教授 高成田忠風先生著
國定韻文詳解及取扱法
定價 金壹圓八拾錢 郵税 金拾貳錢

東京高等師範學校訓導 水戸部寅松先生 共著
小學校書法及書方教授法
定價 金壹圓九拾錢 郵税 金拾貳錢

東京高等師範學校訓導 岡井慎吾先生著
國定小學書 字體及筆法の研究
定價 一、二各 金壹拾五錢 送料 金四錢

▲編目的に照して習熟を名目としめたるは本書なり
▲政治一方のみの事實に關する事を避けたるは本書なり
▲内容を多方位にして綜合的記述をなせしものは本書なり
▲歴史の學習上理解を正確にせん事を期したるは本書なり
▲中等學校の學習用及小學教員受給用に適するは本書なり

一、目的として系統的に前送關係の調査に勉めたり
二、教材の要項として例話訓讀實験指導等に分類し
三、教材の解説には前三項を具體的に解説補充せり
四、參考資料として主要教材の特色の材料を説明し
五、教授上の注意として教材方法の兩方面を指し
本書を其材料を精選し各年級低年級に連絡指導を謀り
前編には實際教授に關係深き議論を述べて指針を定め
後書には拙説を掲げ何人にも容易に教授し得しめたり
本書に國定修身書及び小學校作法教授要項に準據せり

第一編に現時讀方教授の綜合概に對し直覺の重すべきを主張し第二編に
現今讀方教授に對する缺點と認むる事柄を擧げ第三編には從來實地教授
に適用せる方法と實験を有のまゝに綴べ以て著者の態度を明かにせらる

第一編は主として教授の本質に就いて意見を述べらる
第二編は本論として言語文字文章の教授事項を説かれ
第三編は材料につき文學的・非文學的に別して詳述され
第四編は沿革を主として實地經驗を赤裸々に陳述する
著者が本書の巻頭に序して曰く
綴方教授は今尚ほ五里霧中に彷徨しつゝあるが如しといひて著者が從
來の疑問を發し新らしき立場より研究を爲し實地教授の系統的評案と根
本的解決とに努めらる實に空想一片の時流の試みに非ず

詩歌の根本義を把握し指示せる書なり
韻文の性質起源格調使命を説き解釋せるもの本書なり
尋常男女を通じて詩歌俳句新體詩道解せる書なり
作者の小傳を掲げその譯詩の心理に合したる解釋書なり

◎如何にせば書方教授の實績を挙げ得る?
▲書方技能の根本修練 ▲書方教授法諸問題に對する新案
▲大小字楷行草の書法 ▲小學校にて授くべき書法の要點
▲書方教授改善の先驅 ▲著者の新に編立てし改良教授法
◎本書は此問題に對する完全な解答者なり

本書發願には手本の見方を示し次に文字の成立過程を説き最後に連筆法
の各種を教へたれば兒童を以て文字の趣味を興せしめ漢法を習はる空前
の好著にして兒童教育者の必備の良書なり

東京高等師範學校教授 齋藤斐章先生著

實證的見地 心理的思索 歴史の内容的教授法
に據れる

定價 金壹圓六拾錢 郵税金 八錢

東京女子高等師範 學校附屬教授 大塚良治先生著

細目體小學歴史解説

定價金 五年用七拾五錢 六年用六拾五錢 郵税金 各八錢

文部省 督學 官 榎山榮次先生校閱
熊本師範學校教授兼附屬主事 大元茂一郎先生著

新潮流を 歴史教授法精義

定價 金八拾錢 郵税金 八錢

新潮流を 地理教授法精義

定價 金八拾錢 郵税金 八錢

熊本師範學校教授兼附屬主事 大元茂一郎先生
東京女子高等師範學校附屬主事 斯波 安先生共編

尋常 小學 歴史 教授 要綱

五年用金六拾錢、六年用金五拾五錢 郵税金 各八錢

尋常 小學 地理 教授 要綱

五年用金六拾錢、六年用金五拾五錢 郵税金 各八錢

東京高等師範學校附屬教授 松田良藏先生著

新 學 校 園

定價 金壹圓參拾錢 郵税金 八錢

東京高等師範學校附屬 岡 千賀衛先生
東京高等師範學校附屬 小林佐源治先生共著

複 式 教 授 法

定價 金壹圓五拾錢 郵税金 拾貳錢

東京高等師範學校附屬 小林佐源治先生著

劣 等 兒 教 育 の 實 際

定價 金壹圓六拾錢 郵税金 拾貳錢

奈良女子高等師範學校附屬小學校編纂

奈良女子高等師範 學校附屬小學校 各教科目教授要綱

定價 金卅五錢 郵税金 六錢

東京高等師範學校附屬 相島龜三郎先生
東京高等師範學校附屬 岡 千賀衛先生 肥後 盛熊先生共著

教授訓練に關する實際問題の解決

定價 金壹圓八拾錢 郵税金 拾貳錢

●本書は形式的教授法を排して内容的教授法を推挙し教授力を増す
●本書は歴史を科學的實驗的直観的に取扱ひ史實を有機的に考察す
●本書は史實を科學心理的發現として國民心理時代心理より觀察す
●本書は歴史の外形と内容との關係を例示し且因果的關係を説明す
●本書は教科書取扱方法及教材選擇の標準教案作製上の心得を指示す
著者の序に曰く
完全なる細目を基礎とし、借問す各學校完全なる細目ありや。細目は歴
史教授の羅針盤なりその時間の善用の如きその連絡事項の如き否大主義
の一貫せる如き本書の特に問はんとす」と以て知るべし

▲地理歴史科の教授に一新生面を展開せしものは本書なり
▲所説新新にして健健研究奇技にして周到なるは本書なり
▲許多の歴史讀史圖譜並時代圖を挿入せしは本書なり
▲新思想に基きたる著者の創見を擧げたるものは本書なり
▲熱心なる研究家實質なる實際家の歴右の寶典は本書なり

●本書は各教材を如何なる程度に敷衍すべきかを研究したる者なり
●本書は敷衍の要領を教授法上より適當に併列叙述したる者なり
●本書は所々に部分圖解を挿入し又挿圖の解説をなしたる者なり
●本書は版事項を明かにし諸種の注意をも詳細に掲げたる者なり
●本書は教材研究と教法研究の結晶にして實際家の良友たる者なり

●新學校園は新教育の理想と社會の要求とに應じて生れたるものなり
●新學校園は従来の經驗に鑒みてその施設の完成を期したるものなり
●新學校園は學校園の目的及價值に明透なる解決を與へたるものなり
●新學校園は施設上の實際と利用法とを詳細適切に指導せしものなり
●新學校園は學校園に關する理論及實際上の問題を網羅せしものなり

●動的教育なる新傾向を基礎として建設せる複式教授法は本書なり
●複式編制のみならず單式編制にも革命の旗を擧げたるは本書なり
●あらゆる學級編制に關する理論と實際とを詳述したるは本書なり
●東轉注入を排し自發的に知能を啓蒙せん事を期したるは本書なり
●活動主義發揚主義其他新學說に基づく教授法を説けるは本書なり

●本書は著者が普通教育の原理方法を闡明すべく多年劣等兒生の教育を行
ひし研究の結晶なり
●本書は編制教材方法等假定して後に一般的に教育せんとする形式的演繹
的的教育を打破し兒童の個性と能力とを中心として歸納的新教育を説かれ
たり

●本書は當校諸先生が數年の研究討論を重ねて兒童教育の要旨たる大綱を
規定せられたるものにして各科目を一、教授の要旨二、教材は選擇排列
三、教材の取扱法四、教授上の注意等四項に分ち詳細に闡明せられたり

●一般教育社會の研究問題となりつゝある者を網羅せしは本書なり
●今後實際家の注目すべき重要問題にも先鞭をつけたるは本書なり
●理論的研究と實際的研究とを積める著者の手に成れるは本書なり
●各教科毎に著者獨得の長所によりて分擔執筆せられたるは本書なり
●教授法上の系統を追うて記述せられたる實際的教授法は本書なり

前東京高等師範學校訓導科 肥後盛徳先生 共著 東京高等師範學校訓導科 肥後盛徳先生 共著

教授法の批評眞髓

定價 金壹圓 郵税金八錢

▲學理的論議を有する最新思潮を酌みて批評的考察の着眼點を示したるものは本書なり
▲現今教授法のあらゆる弊害を精査して教授者の最良指針たらしめたるものは本書なり
▲各科教授の詳細なる方法と周到なる注意とを説きたるものは本書なり
▲澤柳京郎大學校長は本書を見て何れも内容改善の眞實に感服したる實際問題のみであつて頗る有効切なる研究である云々と推賞せられたり
▲横山文部省督學官は余が本書に校閲者として其名を辱したる所以のものは他なし本書の有餘なる著書たるを證明し廣く實地教育者の讀書眼に觸れんことを希望するに在るのみ云々と序せられたり

文部省督學官 横山榮次先生校訂 北海道小學校長 末武政一先生著

小學校に關する實地研究

定價 金壹圓陸拾錢 郵税金八錢

本書は各學校に於て學藝會及運動會の實施法に頭を悩ます人の爲に學藝會及運動會に於て學藝に頭を悩ます人の爲に運動會及平業に於て遊戯に頭を悩ます人の爲に最良の件借たるべく生れたるなり

廣島高等師範學校訓導科 野澤正浩先生 廣島高等師範學校訓導科 稻垣國三郎先生 共著 廣島高等師範學校訓導科 鎌田精一先生 廣島高等師範學校訓導科 島田牛稚先生 共著

學藝會と運動會

定價 金壹圓四拾錢 郵税金拾貳錢

近年我が女子學界の傾向頗る憂ふべきものあり少女教育の健全を期するに非んば之を矯正する事甚だ難きを嘗て嘗て少女教育の源泉を如上の見地に求めて以て本書を成し之を家庭社會並に學校に動もつ少女教育の指針たらしめんとす

學智院女學部教授 馬上孝太郎先生著

少女の教育

定價 金壹圓八拾錢 送料金拾貳錢

現下世界の大部分は吾人に何を教へつゝあるか否か乎し之に暗目せずとするも試案の實力は帝國の近き將來に於ての中堅たるべき中等教育者及青年會員たるもの、直視目なる留意を要する所なり著者諸先生の本書發行の被實に按じあり熱誠其眞實を問へし

小城彦熊先生 飯田金吾先生 共著 暇澤久次先生 遠藤謙道先生 共著

軍事教育綱要

定價 金壹圓五拾錢 郵税金四錢

勤勞作樂の教育は有力なる最近の思潮にて其學問を接して出づ然れども凡て理論のみに走り實際的結果に至りては殆ど見らるものなし本書は此要求に應じんとし生れたるなり而して教授研究の痛快なる警戒を與ふ

區間修通同種學校訓導科教授 梯 英雄先生

作業主義教授の新研究

定價 金壹圓八拾錢 郵税金拾貳錢

兒童各位の教育を施さんとす世の父母教育者に本書を推薦す
◎現教育界は常に同一型なる教育書や教授法の刊行に急務せり
◎著者は此最大缺點を補補し新傾向の先驅として歐米教育家の研究を究み經として著者多年の経験と練とし教育教授の標準を示せり
◎兒童心理の徹底研究に基づける立論は永久不壞の生命を有す

慶島高等師範學校訓導科教授 白井現一先生著

兒童の精神生活と教育

定價 金壹圓五拾錢 郵税金拾貳錢

◎原著者は米國に於ける篤實熱誠なる研究家
◎教育の當體たる兒童研究の原理を説きたるは本書なり
◎同性質の兒童教育論の新思潮の魁をなせるは本書なり
◎最も實用的にして而も新なる恰好の良書は本書なり
◎評者は現に兒童教育指導の任に在るの人也

東京府女子師範學校教授 日田新一先生著

兒童研究の原理

定價 金壹圓六拾錢 郵税金拾貳錢

近來婦人の性質天賦教育職業地位等に關する議論頗る盛であるが或は高思想に固着した者のみが多い本書は多年女子教育に従事する著者が女子に關する各方面の問題を實際的に考究せられたる著書に就て著者新に馳せず其諸論は程度にして最も忠實なる婦人問題の研究である

長岡女子師範學校教授 高賀洗三郎先生著

現代婦人の研究

定價 金五拾錢 郵税金六錢

教授及訓練は小學教育の副産なり然るに近時教授方面の研究にのみ偏せ訓練方面を度外視する傾向あるを見るは不可思議なる現象なり本書は之を憂ひ之を慨して其開拓の矢を放てり熱誠を致し一編也

熊本師範學校教授 大元茂一郎先生著 兼附屬小學校主任

小學校訓練に關する研究

定價 金八拾五錢 郵税金八錢

本書は各學校に於て學藝會及運動會の實施法に頭を悩ます人の爲に學藝會及運動會に於て學藝に頭を悩ます人の爲に運動會及平業に於て遊戯に頭を悩ます人の爲に最良の件借たるべく生れたるなり

奈良女子高等師範學校教授 眞田幸憲先生著

學校管理方法提要

定價 金六拾參錢 送料 金八錢

文部省實業學務員 大山幸太郎先生著

日本教育行政法論

定價 金貳圓五拾錢 郵稅 金拾貳錢

清水保之先生著

小學理科解說

定價 尋常五學年 各金六拾錢 郵稅 各金八錢
尋常六學年

東京女子高等師範學校助教授 藤 五代策先生著

普通圖案新資料

定價 金九拾錢 郵稅 金八錢

東京女子高等師範學校助教授 藤 五代策先生著

手工科應用教具の研究及製作法

定價 金八拾錢 郵稅 金八錢

東京府立第一中學校 小松村補先生著
東京女子高等師範學校助教授 眞田幸憲先生著

大正幼年唱歌(五集以下)

定價 金拾貳錢 郵稅 金五錢

鎌崎繁次郎先生著

分列遊戯

定價 金參拾錢 郵稅 金四錢

廣島高等師範學校友誼友次郎先生著
東京女子高等師範學校助教授 眞田幸憲先生著

小學讀本自習書

前四冊 三年上 金貳拾錢
四冊上 四年上 金貳拾錢
五冊上 五年上 金貳拾錢
六冊上 六年上 金貳拾錢

東京女子高等師範學校附屬小學校編

高等女兒理科教授細目

全一冊 定價 金拾八錢 郵稅 金四錢

文學博士 中島力造先生編 讀書會印行

泰西先哲像傳

全一冊 定價 金九拾錢 郵稅 金八錢

熊本師範學校教授兼附屬主事 大元茂一郎先生著

小學修身教授要項

全一冊 定價 金貳拾五錢 郵稅 金四錢

東京高等師範學校訓導 松田眞藏先生立案

小學理科自習手引

全一冊 定價 各金拾七錢 郵稅 各金四錢

教育訓導及學校管理法の概念を興ふるを目的とし、廣く諸學者の學識を參考してその要點を摘録し、他教科に於て學習すべき事項は其説明を省略し、學習者をして自ら要點を把握せしむるを旨とし、以て諸種の問題に於ける要領を解説せられし書也。

▲教育行政上の原理及實際問題を網大漏さず網羅せしは本書なり
▲教育行政上の實際問題を理論上より詳細に説明せしは本書なり
▲教育行政上の實際問題に對して一々實例を引證せしは本書なり
▲教育行政上の實務に従事せらるる著者の手に成りしは本書なり

抑、我が國民教育に於て理科思想の養成の必要を唱ふるは已に過去の問題たり、今は唯如何にせば理科の趣味を喚起し其結果を有効ならしむるを得るやを研究するの秋なり、然るに從來の理科教授は唯其の形態生體習性性質等に偏し、實驗と應用の二方面を開却せるの憾あり、依て此の缺點を補ふが爲に著者數年の經驗を實驗と應用の二方面に力説せられたる書なり

本書は著者が普通の動物植物自然及其の現象等に就いて圖案の資料として趣味に富める者一百種を選び、理學文學圖案等の三つの趣味に分ち巧妙繪圖の筆もて書かれたるものなり、さばば諸産座右に一本を備へよ

本書はフレイナル會の玩具講習會に於て玩具に就いて著者先生が講演せられたる玩具の製法及玩具に關する意見を記述せられしものなり、幼稚園教育に従事せる方々の必讀すべき良書なり、幸に清覽の榮を賜はらん事を

高橋格先生編

小學校教育法令輯覽

全一冊 定價 金參拾五錢 郵稅 金六錢

東京帝國大學文科大學教授 文學博士 吉田熊次先生著

國民道德と教育

全一冊 定價 金六拾錢 郵稅 金八錢

文學博士 井上哲次郎先生主幹 東亞協會編纂

國民教育と家族制度

全一冊 定價 金六拾五錢 郵稅 金八錢

奈良女子高等師範學校教授 眞田幸憲先生著

國民教育の本領

全一冊 定價 金六拾五錢 郵稅 金八錢

熊本師範學校教授兼附屬主事 大元茂一郎先生著

初學年教授法

全一冊 定價 金壹圓拾錢 郵稅 金八錢

文學士 高木武先生著

文章作法講話

全一冊 定價 金壹圓五拾錢 郵稅 金拾貳錢

理學士 西澤勇士曾先生著

洋畫印象錄

全一冊 定價 金六拾錢 郵稅 金八錢

鹿兒島師範學校教授 池上弘先生著
松下友一先生著

教育の經濟的基礎

全一冊 定價 金八拾錢 郵稅 金八錢

女子大學附屬豐明小學校主事 文學士 河野清丸先生著

兒童と其の境遇

全一冊 定價 金壹圓六拾錢 郵稅 金拾貳錢

女子大學附屬豐明小學校主事 文學士 河野清丸先生著

<p>富崎縣師範學校教諭 川上新之助先生著 兩編小學校主事</p> <p>教授中の訓育 全一冊 定價 金五拾五錢 郵税 金六拾五錢</p>	<p>兵庫縣明石女子師範 學校教諭兼訓導 作井彌三平先生著</p> <p>教壇上の圖畫活法 全一冊 定價 金八拾 郵税 金八拾</p>	<p>東京女子高等師範 學校助教授 藤 五代兼先生著</p> <p>圖畫新教授法 全一冊 定價 金八拾五錢 郵税 金八拾五錢</p>	<p>東京女子高等師範 學校助教授 藤 五代兼先生著 略書を主記憶書新教授法 とせる</p> <p>記憶書新教授法 全一冊 定價 金八拾 郵税 金八拾</p>	<p>東京女子高等師範 學校助教授 藤 五代兼先生著</p> <p>新教授法 全一冊 定價 金四拾 郵税 金六拾</p>	<p>長岡高等女學校教授 小澤錦十郎先生著</p> <p>家族道德其實行方案 全一冊 定價 金貳拾五錢 郵税 金六拾</p>	<p>長岡高等女學校教授 小澤錦十郎先生著 修教育助語 略解及實行方案 正成中圖書</p> <p>略解及實行方案 全一冊 定價 金拾七錢 郵税 金四拾</p>	<p>海軍教授 早川金之助先生著</p> <p>物理實驗測定法 全一冊 定價 金貳圓五拾錢 郵税 金拾貳錢</p>	<p>農學士 岡崎寅吉先生著</p> <p>新式農藝化學實驗書 全一冊 定價 金五拾五錢 郵税 金六拾五錢</p>	<p>東京女子高等師範學校助教授 藤 五代兼先生著</p> <p>女子新圖集 全一冊 定價 金貳拾五錢 郵税 金貳拾五錢</p>	<p>東京女子高等師範學校助教授 藤 五代兼先生著</p> <p>近簡易木工製品圖集 全一冊 定價 金四拾 郵税 金四拾</p>	<p>熊本師範學校教諭兼主事 大元茂一先生著 熊本師範學校訓導 西村 辰先生著 小學用圖解の研究</p> <p>圖解の研究 全一冊 定價 金五拾 郵税 金八拾</p>	<p>文學博士 福來友吉先生校閲 文學士 高其英先生著</p> <p>憤怒及復讐の心理的研究 全一冊 定價 金貳圓參拾錢 郵税 金拾貳錢</p>	<p>東京女子高等師範學校教授 森岩太郎先生著</p> <p>算術演習書 全一冊 定價 金壹圓貳拾錢 郵税 金拾貳錢</p>	<p>東京女子高等師範學校教授 森岩太郎先生著</p> <p>數の計算法 全一冊 定價 金七拾 郵税 金六拾</p>	<p>加藤榮助先生著</p> <p>算術豫習書 全一冊 定價 金參拾 郵税 金四拾</p>	<p>加藤榮助先生著</p> <p>方豫習書 全一冊 定價 金參拾 郵税 金四拾</p>	<p>加藤榮助先生著</p> <p>方豫習書 全一冊 定價 金參拾 郵税 金四拾</p>	<p>加藤榮助先生著</p> <p>方豫習書 全一冊 定價 金參拾 郵税 金四拾</p>	<p>日黑編部編纂 大正四年度入學試驗問題及詳解 中等學校</p> <p>入學試驗問題及詳解 全一冊 定價 金參拾錢 郵税 金四拾</p>
--	--	---	--	---	---	--	--	--	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	--

終

